

第一次大極殿院「東楼」復原工事完成 ～大極門・東楼が並び、奈良時代の風景にまた一步 近づきました～

令和 8 年 3 月 14 日に「平城宮跡歴史公園第一次大極殿院東楼完成披露式典」を開催しました。天候にも恵まれ、国会議員、関係機関、工事施工業者、学識者、地元関係の皆様など、約 170 名の方々に出席頂き、喜びを分かち合うことができました。NPO 平城宮跡の皆様も式典スタッフとしてご協力いただき、誠にありがとうございました。



完成披露式典の様子(舞楽「賀殿」)

国営平城宮跡歴史公園では、奈良時代を今に感じる空間の創出を目指し、かつての宮都「平城宮」における中心施設であった「第一次大極殿院」の復原整備に取り組んでおります。今回完成した「東楼」は令和 4 年 3 月に完成した大極門に引き続き、令和 4 年 4 月より復原整備工事に着手し、工事施工業者、地元関係者の方々のご協力により、この度完成する運びとなりました。

復原整備にあたっては、文化庁や奈良文化財研究所にご支援頂き、これまでの発掘調査や研究から得られた学術的な知見に基づき、奈良時代と同じ位置での実物大の復原を行うとともに、当時と同じく国産ヒノキの活用を行うなどして、往時の建造物をできるだけ忠実に再現できるよう取り組みました。また、槍鉋（やりがんな）などの古来より使用された大工道具を活用することで、伝統技能の伝承などにも取り組んでおります。



完成した第一次大極殿院東楼

工事期間中においては、このような取り組みについて日中いつでも現場をご覧いただけるように見学用デッキを設置し、延べ約 5 万人の方々に工事の様子を見守っていただきました。

完成した東楼は令和 8 年 3 月 15 日より大極門とあわせて見学可能となり、見学開始から 1 か月間で約 1 万 4 千人の方々が訪れ、完成したばかりの建造物を間近に見学いただいております。



東楼見学状況（令和 8 年 4 月）

第一次大極殿院復原整備については、今後東楼に隣接する東面回廊の復原に向け、基盤整備を実施する予定です。引き続き、平成、令和の時代を超え未来のひとびとに往時の平城宮のありようを伝えていくことができるよう、事業を進めてまいります。

（飛鳥歴史公園事務所平城分室 追鳥裕樹）

東楼完成記念ツアーガイド

NPO 平城宮跡は 3 月 14 日の東楼完成記念式典協力はもとより、同ツアーガイドを 3 月 15・17・30 日の 3 日間“もっと知りたいツアーウォーク”に参加した 66 名は管理センターと連携で実施。ガイドの説明と通り抜けや往時の復原をみて廻り、好評を得ていました。



大極門南面から、右が東楼(管理センター提供)

(編集部)



第55回平城宮跡歴史文化講座
が2月15日資料館講堂で201名
を前に「古代の対外戦争(その
3) 白村江の戦い」と題し講演。

齊明6年(660)7月新羅と唐
は百済を挟み撃ちし百済王扶余
隆を洛陽に連行する。唐の高宗は哀れみ釈放する。9月
に唐は船で、新羅は兵馬で百済の王城の泗沘城を破る。
鬼室福信は任存城に立てこもり戦い続け、唐の捕虜を日
本に献上し百済復興のため援軍と扶余豊璋の帰国を求
めた。

齊明7年(661)齊明天皇は援軍を率い筑紫の朝倉宮
に西征するが7月に崩御する。9月、第1次派兵として
豊璋に織冠を授け百済を柵封し帰国させる。福信は豊璋
を復興の旗頭として迎える。12月、避城に遷都するが
うまくいかない。

中大兄皇子は天智元年(662)1月、福信に武器など
を供与する。天智2年(663)3月、第2次として二万
七千人の兵を派兵する。6月、豊璋は福信の謀反を疑い
殺す。8月、新羅は豊璋が福信を斬ったことを知り陸上
から周留城を攻めるが、豊璋は日本が兵士を率いてやっ
てくると言って白村江に迎えに行く。17日、新羅が周
留城を囲み唐は戦船で陣を敷いた。27日、日本の水軍
は唐と戦い負けた。28日、日本の諸将と豊璋は戦況を
見極めず唐を攻めたが統率が出来ずに敗れ多くの死者
が出た。豊璋は船に乗り高句麗に逃げた。

百済滅亡は、白村江の戦いの敗北と思われがちである
が、陸上から周留城を攻めた新羅の攻撃が大きい。百済
滅亡後に多くの百済人が日本に亡命し、日本は彼らの知
識を活用した。烽火、水城、朝鮮式山城で防衛体制を整
え近江に遷都した。

唐と新羅は水面下で対立するが、拡大した新羅勢力の
統制と百済遺民の懐柔のため扶余隆を熊津都督とし新
羅と会談させた。665年高句麗は泉蓋蘇文が死亡し668
年後継者争いで滅亡した。9月、新羅は高句麗滅亡直前
に唐の脅威に備えて日本と和解した。

高句麗滅亡後も全てを唐に取り込められたわけでは
なく渤海国を建国した。唐は渤海国の牽制役を担う新羅
に大同江以南の領有を許す。唐は、西方の吐蕃や北方の

突厥とも争っていて朝鮮半島への影響が薄れ、統一新羅
や日本の領土が守られ、新しい東アジアの秩序が生まれ
る。

(編集部)

平城宮跡歴史文化講座(資料館講堂)

5月23日:市 大樹(大阪大学大学院人文学教授)

藤原氏の人々(そのI)ー 藤原不比等 ー

続いて、第25回NP0平城宮跡通常総会を開催。

2026 平城宮跡クリーン大会

4月18日平城宮跡クリーン大会が行われました。

今回はNP0平城宮跡サポートネットワーク創立25周
年記念事業の一環として朱雀門ひろばから遺構展示館
まで4グループに分かれて480名が清掃活動を実施し
ました。

奈良県世界遺産室はじめ、奈文研、管理センター、プ
ロジェクト「市」の共催及び、シルバー人材センター、
航空自衛隊幹部候補生学校、アップリケ(奈良警察)、
奈良市民走ろう会、パナソニック松愛会、JWマリオッ
トHなど諸団体や地元市民の協力で汗を流しました。参
加者からゴミは無く広々とした平城宮跡を歩いてとて
も気持ち良く楽しかった、来年も来ますと話していまし
た。



本中真奈文研所長の代表挨拶



遺構展示館駐車場集合写真

(環境保全部会)

内藤航さん(奈良博文化財課研究員)が2月14日127名を前に「仏像の彩り—特別展『南都仏画』に寄せて」と題し講演。



奈良時代に国際色豊かな天平絵画が花開き、平安時代には優美な仏画が描かれ、南都仏教の復興期の鎌倉時代には絵仏師達が仏画や絵巻だけでなく、仏像等の彩色に携わるようになった。絵師が仏像に彩色をしたことがわかる古例として、1069年制作の法隆寺聖徳太子坐像があり像内墨書に絵師^{はたのちてい}秦致貞と記されている。1232年の興福寺十大弟子や八部衆の修復時、天平の彩りの再現後に活躍する重命が参加している。

重命は1268年元興寺聖徳太子孝養像の画師の1人となり、今は廃寺となった内山永久寺で1272年建造された不動明王及び八大童子立像には、法橋重命として願文末尾に記載されている。

また1201年に快慶が造った僧形八幡神坐像の像内には絵師として有尊が銘記されていて、安倍文殊院の文殊菩薩騎獅像も快慶が造立し有尊が彩色しており、仏師と絵師の関わりも今後解明が待たれる。

仏画の図像や仏像の彩色の継承はどのようになされてきたのか、「釈迦霊鷲山説法図」、重命筆の「四天王像」などの展覧が楽しみである。(編集部)

田中裕子さん(大阪歴史博物館学芸員)が3月14日134名を前に「難波宮跡内裏地区の発掘成果と公園整備」と題し講演。



乙巳の変後に孝徳天皇が古墳時代に大型倉庫群があった難波長柄豊碕に宮を遷した。難波宮は孝徳天皇が造った掘立柱植物質屋根の建物の前期難波宮と聖武天皇が大極殿を礎石建ち瓦葺きで造った後期難波宮である。主要建物は正方位に並び古代宮殿の基本構造である。

前期宮は中央集権国家を具現化し朝堂院や朝集殿が作られ、652年に完成した。翌年の653年に中大兄皇子などが飛鳥に戻り、654年に孝徳天皇が亡くなり短期の宮となる。建物群は残り天武天皇は複都としようとしたが焼失した。40年後に聖武天皇は前期宮跡に複都を造った。焼失した柱穴に柱を建て同じ中軸線で造っ

た。744年に一時期に皇都となるがすぐ平城に宮は戻され、長岡宮造営時に解体され移築された。

史跡公園整備の発掘調査で内裏正殿と推定される掘立柱建物跡が発掘された。前期宮の柱跡から後期宮の瓦が出土した。焼失した建物跡に後期難波宮が焼け跡を埋め整地した証拠である。史跡難波宮跡公園の内裏地区が公開され、「内裏正殿」の高床部分を復元し遺構表示を行っている。(編集部)

松井一晃さん(橿原市文化財保存活用課長)が、4月11日187名を前に「菖蒲池古墳の歩んだ道」と題し講演。



菖蒲池古墳は7世紀中頃の方墳で、石室内に2基の家形石棺が縦一列に安置されている特異な古墳である。明治時代から測量や調査が行われ、その後の発掘で石棺の屋根部分の形状が装飾的で、内部は漆で塗られていることが判明した。しかし大半が土に埋もれているため石室の全長などは不明。墳丘は当時の最新技術である版築によって造られており、掘割には土嚢積みが採用されています。

この古墳の立地を見ると、背後に山、左右に尾根が伸びていて三方が囲まれ、前方が平地で開けていることから、造営に風水思想があったと考えられ、形状に具現化されている。

被葬者は版築技法や漆を用い、外堤の設置などにより高い身分の人物と考えられ、当初から2棺安置が計画されていることから、蘇我蝦夷と入鹿、あるいは松井氏は蘇我倉山田石川麻呂ではないかと推察されている。

築造後大きく形状を変えてきた古墳をこれから先どのように守っていくのか。漆塗の石棺の保存も含めて時代の変化に合わせて維持していくのが今後の課題である。(編集部)

次回の平城京歴史講座(いざない館)

- 5月9日：岩崎郁実(橿原考古学研究所 主任技師)
「平城京南方の宗教施設-左京八条一坊の発掘調査-」
- 6月12日：長澤卓志(木津川市文化財保護課)
「高麗寺跡を未来へつなぐ—木津川市の史跡整備」
- 7月11日：江浦 洋(元興寺文化財研究所研究員)
「考古学から見た古代の医療」

べっ しょ ひで たか
別 所 秀 高

文化財情報研究室長



1970 年大阪府八尾市生まれ。1992 年 3 月関西大学文学部史学地理学科卒業。同 4 月東大阪市文化財協会に就職、のち大阪市文化財協会に転職。仕事

の傍ら同大学院で自然地理学や年代測定法を学び、2019 年博士号取得。2025 年 6 月奈文研に採用され現在に至っています。

33 年間、発掘調査をしたなかで一番印象に残っているのは、最初に担当した近鉄布施駅前での調査で、西日本では珍しい縄文時代後期～弥生時代の大規模な貝塚が見つかり、それがなかったら今の自分はないと言われました。その他、覆工板をかけての道路下での調査、狭い上に地下 6～7 m の深いところでの調査、夜間の調査なども貴重な経験もされたそうです。

自然地理学は理系に近い分野で、地層を観察して土砂が堆積した当時の地形を推測したり、災害痕跡を見出したり、時には土を持ち帰って室内で実験をすることもあるそうです。不謹慎かも知れないという前置きで、落ち着きを取り戻した災害現場に駆けつけ、地層や地形を観察することもあるとのこと。

まだ奈文研に来られて一年足らず。遺跡の湿り具合や数多くのため池が残っていることから、奈良盆地は改めて水が少ないと感じられたとのこと。これまでの奈文研スタッフとは異彩を放つ存在に魅力を感じました。

最後に NPO 平城宮跡に対しては、公園の魅力を発信して、それを友人や知人に伝えてリピーターを増やしてほしいと言われました。

今は八尾から JR と近鉄で通い、立呑みや野球観戦が一日の楽しみとのこと。

(編集部)

平城宮跡楽しむ”人たち

木簡の日記念ツアーガイド

木簡が初めて発掘された 1 月 24 日を NPO 平城宮跡が木簡の日と提唱しています。

3 月 7 日木簡の日記念ツアーガイドを実施し 30 名が参加。西隆寺跡木簡が重文指定された西隆寺跡からスタート。大膳職推定地（一号木簡出土地）～内膳司推定地～内裏北外郭官衙～内裏東大溝～造酒司と、それぞれ木簡の出土地で特徴の説明を行い、“とても興味が湧いてきた”との声がありました。回は聖武天皇大嘗祭木簡などを実施の予定です。
(文化・ガイド部)



大膳職推定地(一号木簡出土地)近くのガイド

新規会員の紹介/募集

新規会員の紹介 (4 月 1 日現在)

市川 昇、小樽 栓、金澤正寛、川島麻衣子、桑原恵美子、田中康成、津田美樹、弘津栄一、福井重利、松下明美、森本昭憲、安井昭弘 (以上 12 名が入会)

*新規会員の募集(活動の支援/入会のお申込み)

◆個人が支援/活動 年会費 3,000 円

◆法人が支援/活動 年会費 10,000 円

◆お申込み: ☎ & FAX 0742-34-7713

編集後記

新年度に入り、新しい生活を始められた方も大勢いらっしゃると思います。会報紙「天平のひろば」も今年創刊 100 号を迎えます。それを機に形態を一新し皆さまに楽しんでいただけるような会報紙を目指して、さらに新しい情報を提供してまいります。どうぞご期待ください。(Y. S)